

1 いじめの認知件数

(1) H26年度 月別いじめの認知件数 (滝川市)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小学校	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
中学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2

(2) H24～26年度 いじめの認知件数 (滝川市)

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
小学校	4	2	2
中学校	5	5	0
計	9	7	2

1-2 いじめの態様 (滝川市)

(3) H26年度 いじめ月例報告から (滝川市)

		小学校	中学校
いじめの態様	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	1	0
	仲間はずれ、集団による無視をされる。	0	0
	軽くぶつかれたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	0	0
	ひどくぶつかれたり、叩かれたり、蹴られたりする。	1	0
	金品をたかられる。	0	0
	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	0	0
	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	0	0
	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいいやなことをされる。	0	0
	その他	1	0

1-3 いじめの発見・相談相手

(4) H26年度 問題行動等調査から (滝川市)

		小学校	中学校
いじめの発見のきっかけ	学校の教職員等が発見	学級担任が発見	0 0
		学級担任以外の教職員が発見	0 0
		養護教諭が発見	0 0
		スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0 0
		アンケート調査など学校の取組により発見	0 0
	学校の教職員以外からの情報により発見	本人からの訴え	0 0
		当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	1 0
		児童生徒（本人を除く）からの情報	0 0
		保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0 0
		地域の住民からの情報	0 0
いじめられた児童生徒の相談の状況	学級担任に相談	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	1 0
		その他の（匿名による投書など）	0 0
		学級担任に相談	1 0
		学級担任以外の教職員に相談（養護教諭、スクールカウンセラー等の相談員を除く）	0 0
		養護教諭に相談	0 0
	学校以外の相談機関に相談（電話相談やメール等も含む）	スクールカウンセラー等の相談員に相談	0 0
		保護者や家族等に相談	0 0
		友人に相談	1 0
		その他（地域の人など）	0 0
		誰にも相談していない	0 0

2 不登校児童生徒数

(1) H26年度 月別不登校の状況（滝川市）

月別不登校児童生徒数（月別：7日以上）※病欠は除く

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H26年間30日以上	H25年間30日以上
小学校	4	4	4	5	4	4	5	5	5	4	5	5	5	5
中学校	15	14	15	14	15	17	20	21	19	20	22	15	28	37
計	19	18	19	19	19	21	25	26	24	24	27	20	33	43

(2) H26年度 不登校の割合（在籍比）

- ・小学校：0.26%（北海道 0.32%）
- ・中学校：2.66%（北海道 2.54%）

2-2 効果のあった学校の措置

(5) 効果のあった学校の措置（北海道）

順位	効果があった学校の措置
小学校	① 家庭訪問を行い、 学業や生活面での相談 にのるなど様々な指導・援助を行った。
	② 登校を促すため、 電話 をかけたり 迎えにいく などした。
	③ 不登校の問題について、 研修会や事例研究会 を通じて全教師の共通理解を図った。
	④ 保護者の協力 を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
	⑤ 全ての教師 が当該児童生徒に 触れ合いを多く するなどして学校全体で指導にあたった。
	⑥ 様々な活動の場面において 本人が意欲をもって活動できる場 を用意した。
	⑦ 保健室等 特別の場所 に登校させて指導にあたった。
	⑧ 教師との触れ合いを多くするなど、 教師との関係を改善 した。
	⑨ 教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあたった。
	⑩ スクールカウンセラー、相談員等 が専門的に相談にあたった。
中学校	① 家庭訪問を行い、 学業や生活面での相談 にのるなど様々な指導・援助を行った。
	② 不登校の問題について、 研修会や事例研究会 を通じて全教師の共通理解を図った。
	③ 登校を促すため、 電話 をかけたり 迎えにいく などした。
	④ スクールカウンセラー、相談員等 が専門的に相談にあたった。
	⑤ 保護者の協力 を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
	⑥ 全ての教師 が当該児童生徒に 触れ合いを多く するなどして学校全体で指導にあたった。
	⑦ 保健室等 特別の場所 に登校させて指導にあたった。
	⑧ 教師との触れ合いを多くするなど、 教師との関係を改善 した。
	⑨ 友人関係を改善するための指導を行った。
	⑩ 教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあたった。

2-3 不登校問題の実態

(6) H23~26年度 不登校数（滝川市）

	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6
小学校	6	7	6	5
中学校	25	26	37	28
計	31	33	43	33

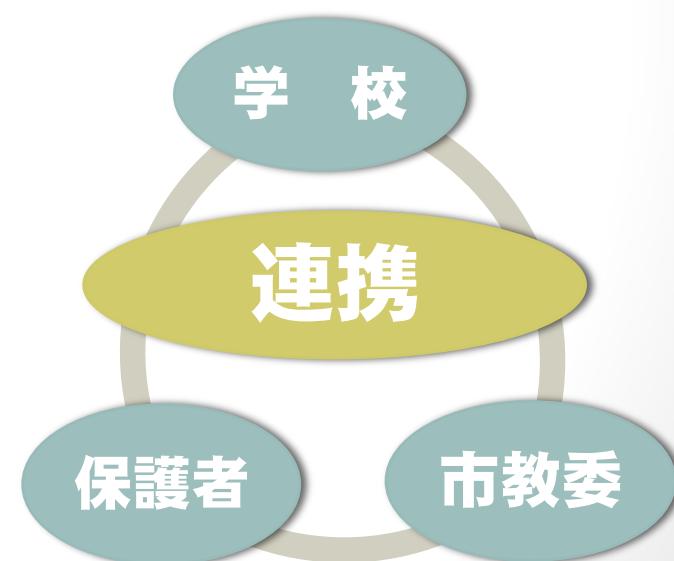
安否確認が取れた

学校適応指導教室へ通えるようになった

相談室等で過ごせるようになった

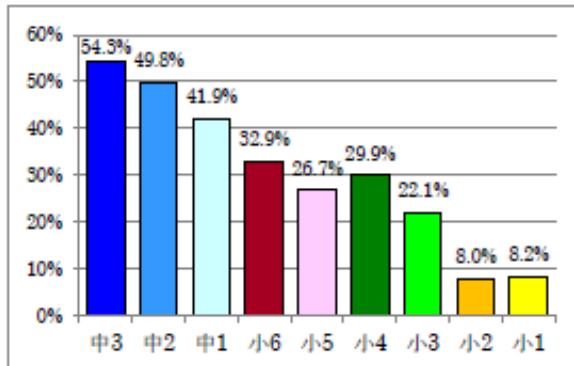
通常の学校生活を送れるようになった

学校の主体的かつ
組織的な取組



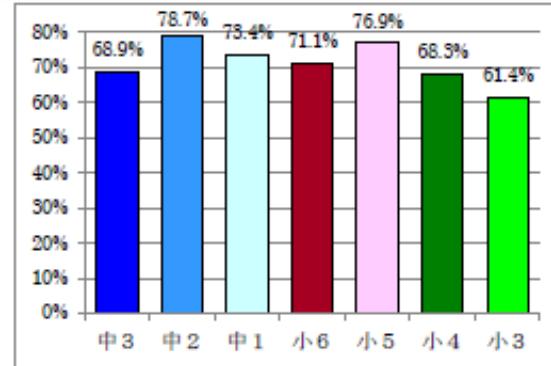
3 「スマートフォン・携帯電話の利用に関する意識」アンケート調査結果から

(1) 児童生徒のスマホ等の所持実態



【図1】子ども専用のスマホ等の所持率

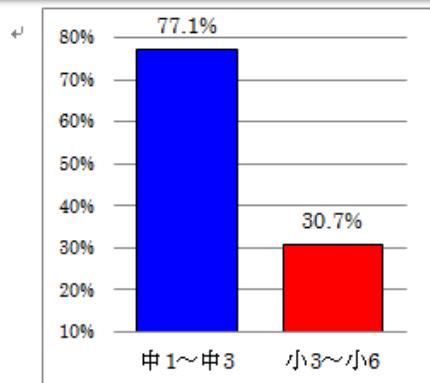
注)全保護者回答(小1・2)全児童生徒回答(小3～中3)



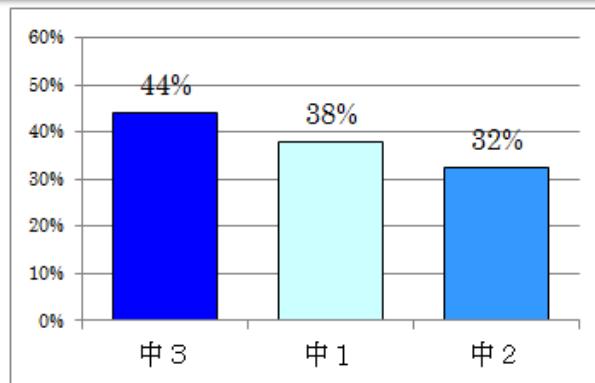
【図2】スマホ等を持ちたいと思っている児童生徒の割合

注)児童生徒回答(子ども専用のスマホ等を持っていない児童生徒対象)

(2) フィルタリングの利用実態



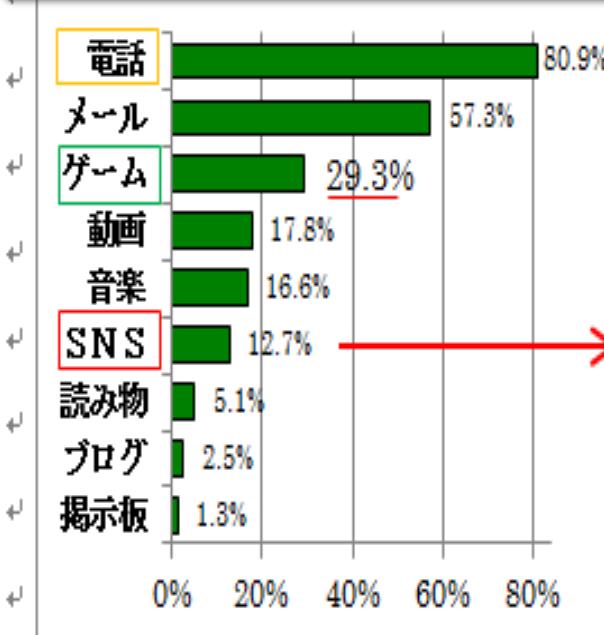
【図3】ネットの危険性について⁺学校で学んだ児童生徒⁺
注)全児童生徒回答 複数選択



【図4】フィルタリングを利用していない上位3学年⁺
注)保護者回答(子ども専用のスマホ等を持たせている保護者対象)

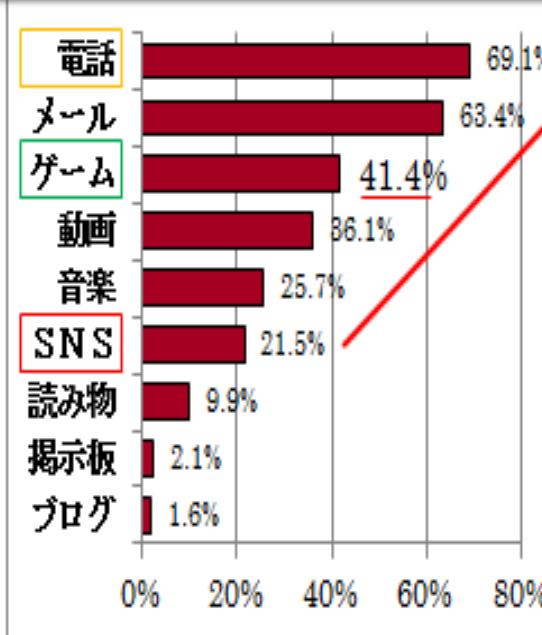
「スマートフォン・携帯電話の利用に関する意識」アンケート調査結果から

(3) 児童生徒のスマホ等の使用状況



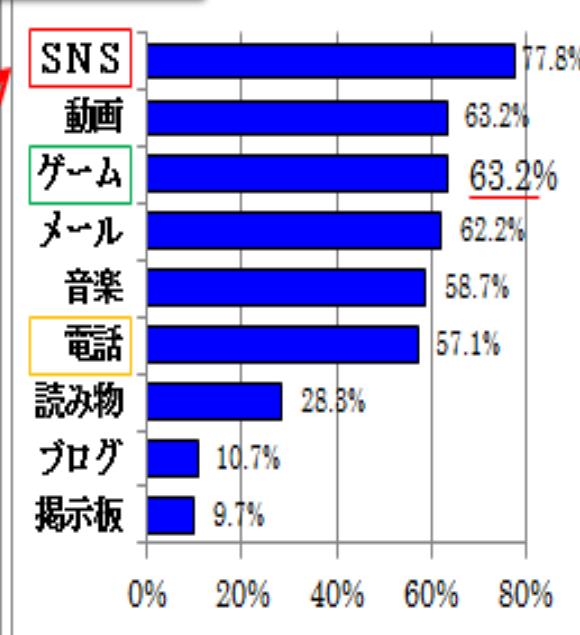
【図5】スマートフォン等で何を利用しているか
(小学3・4年)

注) 児童回答 (自分専用のスマートフォン等を持ってる児童対象)
複数回答可能



【図6】スマートフォン等で何を利用しているか
(小学5・6年)

注) 児童回答 (自分専用のスマートフォン等を持ってる児童対象)
複数回答可能



【図7】スマートフォン等で何を利用しているか
(中学生)

注) 生徒回答 (自分専用のスマートフォン等を持ってる生徒対象)
複数回答可能